

- ・ 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・ 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・ 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

令和7年11月14日

総合交通対策調査特別委員会

速報版

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

午前9時59分開会

○しぶや竜一委員長 それでは、皆様おそろいです
ので、ただいまより総合交通対策調査特別委員会
を開会いたします。

———— ◇ ————

○しぶや竜一委員長 まず初めに、記録署名員の指
名をさせていただきます。

白石委員、おぐら委員、よろしくお願ひいたし
ます。

———— ◇ ————

○しぶや竜一委員長 次に、報告事項を議題といた
します。

①から⑤、以上5件を都市建設部長から、⑥か
ら⑨、以上4件を交通対策担当部長から報告をお
願いいたします。

○都市建設部長 おはようございます。よろしくお
願いいたします。

まず、報告資料の2ページ、御覧いただけます
でしょうか。

件名でございます。足立区の交通事故概要及び
「第11次足立区交通安全計画」「足立区自転車
活用推進計画」の取組結果についてでございます。

まず概要でございますが、足立区の項番の1と
しまして、足立区の事故発生件数の推移等を記載
させていただいております。

次に、下に行きまして、(2)でございます。
交通事故の件数の推移と自転車関与率としまして、
足立区、残念ながら自転車が関与する事故が59.
1%となってございます。

続いて、3ページでございます。

項番の2でございます。令和6年度の主な取組
と実施状況でございます。初めに、幼稚園、保育
園の交通安全教室、以下、4ページに、小学校で

の自転車安全運転免許証発行事業、中学校、高校
でのスタントマンを活用した体験交通安全教室、
高齢者、大人向けの交通安全講話等、5ページに
移りまして、ポスター等の制作を通じました啓発
活動の推進、自転車のヘルメットの購入費補助、
また、自転車走行環境の整備と、5ページ下にな
りますが、シェアサイクル事業の推進等を実施し
てまいりました。

6ページでございます。

項番の3、今後の方針でございます。引き続き
自転車関与事故に対する啓発としまして、特に、
来年4月1日から自転車も交通反則通告制度が導
入されますので、これについて周知を図っていく
ことと、(2)でございます、自転車活用につき
ましては、ナビマークの整備であったり、シェア
サイクル事業の推進を図ってまいります。引き続
き各関係機関と連携しながら、幅広い世代に対し
て、交通安全及び自転車活用に関する様々な取組
を推進してまいります。

次に、7ページでございます。

つくばエクスプレスの東京駅延伸に関する取組
状況についてでございます。

これにつきましては、さきの第3回定例会でも
御質問いただいておりますので、整理した内容
を報告させていただくものでございます。

初めに、首都圏新都市鉄道株式会社への要望書
の提出でございます。別添9から11ページに要
望書の詳細を付けさせていただいておりますが、
本年6月25日に内容については記載のとおりで
ございますが、同社回答でございますが、本年度
の社の事業計画にも位置付けている期成同盟会と
連携しながら東京駅延伸に係る社会的、経済的意
義や効果等について幅広く勉強していきたい旨の
回答がございました。

項番の2でございますが、期成同盟会の入会等
でございます。当区につきましては、今年の1月
22日の当委員会で御報告しますが、昨年の10

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

月に期成同盟会に入つてございます。9月16日に千葉県が入会しているということで、あと、顧問の就任等につきましては記載のとおりでございます。

8ページ、今後の方針でございます。引き続き期成同盟会と連携しまして、機運醸成を図つてまいります。

続いて、12ページでございます。

日暮里・舎人ライナーにおけるバスを活用した実証実験の取組状況についてでございます。

これにつきましても、前回10月14日の当委員会で御報告した内容の続きでございます。項番の1、実証実験の実施方法でございますが、予定では今年の12月22日から翌年3月27日の平日に運行をさせていただく。運行期間は江北駅から日暮里駅前。運行時間については7時から8時の間の1日3便を予定してございます。

13ページ、停留所の位置等については記載のとおりでございます。

また、項番の2のバスの利用方法についてでございますが、事前に申込みをいただきまして、利用者証の発行において実証実験をさせていただきたいと思います。

3番のスケジュールは記載のとおりでございます。

今後の方針ですが、引き続き周知等に努めてまいります。

なお、本日追加でお付けしました別添資料のところ、若干御説明申し上げます。今回、事業者選定に当たりまして、委託事業者の結果につきまして10月22日に株式会社JTBに決定しました。今回バスの運行につきましては、北区に本社ございます東京ヤサカ観光さんを選定されました。契約の手続的には問題はなかったのですが、項番の2で、これまでの経緯と現状を御説明申し上げます。今回の実証実験に当たりまして、バス協会に事前に御相談を差し上げました。バス事業者にお

いて、バスの調整や取りまとめは難しいということ、個別契約で進めてほしいということがありました関係で、今回、委託事業者に今回の事業の委託をしたということでございます。

その際に、契約書の中、委託仕様書の中に、私どもの足立区の事業者さんを優先的に使っていたことがやっぱりいいことだと思っていたのですが、実はその部分にそこが生じております。繰り返しになりますが、契約の手続上は問題ないのですが、仕様書の内容に若干不備がありまして、今回の第1ブロックに所属しているバスの足立区の事業者さんが選定されなかったという結果でございます。

今後の対応方針でございますが、こちら下の方にございますとおり、情報提供がバス事業者選定後になったものの、事業者の選定に仕様書が反しているとまでは言える状況ではないので、今回の実験につきましては、選定されました東京ヤサカ観光による運行といたしますが、今回のことを教訓に、同様のバス事業者を運行する場合につきましては、区内事業者が積極的に参加できる仕組みにするということで、最後に書いてありますとおり、第1ブロックの事業者との交渉を最優先に進めるというような内容で今後実施していきたいと思います。大変申し訳ございませんでした。

引き続き、14ページでございます。

北綾瀬駅周辺における新規自転車駐車場の整備でございます。

これにつきましては、区民から北綾瀬周辺は駐輪場少ないという御意見を多数いただいている関係で、今回、新たに整備するものの御報告でございます。

施設の概要については記載のとおりでございまして、使用台数は約600台、位置につきましては、14ページ下にあります図のとおりでございます。

15ページ、2の区の土地貸付け申出の経緯で

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ございますが、実は東京スマイル農業協同組合様から有効に活用できる土地の情報がございまして、その他、協議、調整を進めさせていただいた後、今回の報告に至っているものでございます。

3のスケジュールでございますが、土地、引き続き事前調整と、12月の第4回定例会に補正予算として計上させていただく予定でございます。お認めいただいた際には、土地賃貸借契約の締結、以下記載のとおりで、令和9年1月の開設を目指して進めてまいりたいと思います。

続いて、16ページでございます。

今度は竹の塚東自転車駐車場A棟B棟の閉鎖に伴う代替自転車駐車場の整備についてでございます。

こちらにつきましては、冒頭書いてございますとおり、都が施行を予定しております都市計画道路補助261号線の整備の区域内にこの駐輪場接しておりますので、道路整備に伴いまして閉鎖する必要性があります。その代替の駐輪場の整備についての御報告でございます。

整備の概要としましては、案内図、ちょうど線路の今度は西側に、こちらの代替機能を整備したいと思います。

敷地面積、以下記載のとおりでございます。

今回の駐輪場に当たりましては、現在の駐輪場については定期利用の新規受付を停止しております、減らしながら、新たに暫定整備するところについては基本的には受け入れられるようなスケジュールで考えてございます。

17ページでございますが、代替駐車場の収容台数については約1,160台を予定してございます。

これに伴いまして、項番の2でございます。隣接民有地の用地取得でございますが、今後、地権者と交渉を進めまして、駐輪場整備に支障がないように交渉を進めてまいりたいと考えてございます。

18ページでございます。

スケジュールでございます。来年度、令和8年度に駐車場の設計委託、以下、令和9年整備で、令和10年度に既存駐車場の移行と解体、代替駐車場の運営開始を考えてございます。

私は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○交通対策担当部長 おはようございます。よろしくお願ひいたします。

19ページをお願いいたします。

はるかぜ路線維持事業の進捗についてでございます。

2点ございます。1点目がはるかぜ共同事業における区負担金の返還についてでございます。こちら共同事業で日立自動車さんと、それから新日本観光さんとやっておるんですけども、新日本観光の方の区の負担金について、事業者からの計上額に誤りがあったということで、事業者から該当額の返還を受けるものでございます。返還理由でございますけれども、減価償却の費用として、国であったり東京都からの補助を受けていた部分が計上されていたというものです。

2番で、返還対象経費については記載のとおりでございます。

それから3番で、返還額については1,440万円余でございます。

4番で、額が大きいということございまして、先方とも協議をした結果として、分納で返納頂くような形になってございます。

2番でございます。

はるかぜ共同事業路線の運行ダイヤ最適化についてでございます。

こちらにつきましては、前回もちょっと御報告をさせていただいたんですけども、少し遅れているという状況でございます。ダイヤの改正に向けて検討しているのですけれども、進捗が遅っております。

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

1番、遅延理由でございますけれども、こちらの方に記載させていただいたとおりで、いろいろな条件があるのですけれども、そういう条件を組合せて計算式を進めていますと、片仮名のアのところにあるのですが、最適な時刻表ということで、括弧で10の388乗倍、要はゼロが388個並ぶような、とおりの結果が出てくるような形になりますので、相当な時間を要してしまっては、その中でも繰り返し繰り返しやっているような状況で、なかなか進んでいなかったというものでございます。

20ページになりますけれども、2番で対応状況ということで、3段階ぐらいに分けた上で設定条件の整理等を進めた上で所要時間の短縮を図っていく。それから、今後の予定でございますけれども、これまで12月というふうにお話しさせていただいたおったんすけれども、何とか来年の2月までには改正を進めていきたいというふうに考えております。

21ページでございます。

地域内交通導入サポート制度における出張勉強会の開催等についてでございます。

こちらにつきましては、内容の方は扇の地区と、それから舎人の地区についての状況の報告になります。

各地区的取組状況についてということで、1番、扇地区でございますけれども、表の方に書かせていただきましたけれども勉強会を実施している状況でございます。こちらは一昨年から、もう地元の方とも少しお話をさせていただいている中で、やはり地域で、町会・自治会単位で勉強会を開催してみてはどうかというような御意見もいただきまして、今進めている状況でございます。

イのところで、主な御意見ということで、ライナーに近いので、そこにつながる移動手段があつたらいいのではないか、あるいは常東地区で今やっているデマンド型が利便性が高くていいのでは

ないかといった御意見もいただいております。

2番のところでは、都営住宅の舎人自治会、舎人6丁目アパート、こちらの方とやはり同じように勉強会をさせていただいております。こちらにつきましては、これから今ちょうど移動実態に関するアンケートをやろうということで、今、配布をちょうどして、12月の上旬に向けて回収をしていくというような流れになってございます。

22ページにつきましては、出張勉強会の概要ということで、こちらのサポート制度の中にこの内容が掲載されておりますので、そちらをお示しさせていただいているところでございます。

下の方、3番でございますけれども、本制度のサポート制度の手引の概要版の作成ということでつきました、年度内を目指して本制度の概要版を作成していきたいということで御報告でございます。

23ページでございます。

常東地区「チョイソコ×せんじゅ」の利用状況等についてでございます。

1番で、利用者登録状況等でございますけれども、10月16日時点の数字で579名の方ということでございますが、直近で11月13日時点での608名の方の登録に今なってございます。少しづつ増えている状況でございます。

(2) のところでグラフに示しておりますけれども、60代ぐらいまでの方と70代80代以上の方がほぼ同じぐらいの数になってございます。

2番、利用状況等についてでございます。こちらにつきましては、下の方、グラフで8月9月の1日当たりの平均の利用数になっておりますけれども、スタートの月では15.6だったんですけども、9月は少し周知はできたのかなと思うのですけれども、暑かったせいもあり、19.5、こちらの方にグラフがないのですけれども、10月の平均は15.3でございましたので、逆に少し下がっているような状況もございます。

24ページをお願いいたします。

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

3番で協賛金モデルの資金運用についてでございます。協賛金の話もこれまで何度も何度か御報告をさせていただいたところでございますけれども、協賛金を得て、運行の経費等に充当するというような検討を進めているところでございます。地元の皆様と今お話をしているところで、これから実際に進めていければというふうに考えておるところでございます。

まず、1番のところで、主な運用方針ということで、チョイソコを育てていくための協賛金を募っていく。それから、協賛額は少額から設定をしようというようなことで考えております。それから、協賛者にとってもメリットのあるようなやり方を実施していこうということで今準備をしているところでございます。

2番のところでは、継続運行基準における協賛額の目安ということで、下の方に1日当たりの利用件数20件と22件の比較ということで、20件というのは9月の実績がそのくらいでございますので、その場合に、今、1日7時間の運行で20件を輸送した場合に、利用1件当たりの金額というのが1,680円というような状況でございます。こちらを8時間にした場合、7時間で不足する部分を協賛金で補う場合には4万2,000円ほど掛かる。あるいは1時間増やして8時間にした場合には、協賛金で同じ20件利用の場合ですけれども、10万円ほどの費用が掛かってくるというような試算でございます。

今後のスケジュールでございます。今後、もう一度、地元とも再度協議をした上で、確認をした上で協賛金の額の決定等を進めていきたいというふうに考えております。その後、順次、協賛の募集を開始していきたいと考えております。

25ページ以降は利用者の状況等の資料でございます。

それから、今申し上げました協賛金につきましては、27ページのところにポスターを作成して、

協賛頂いた企業の方々のお名前ですとか、そうしたものを協賛額に応じた形で、大中小のような形で掲示をして、それを、28ページでございますけれども、各場所に掲出させていただこうというような考えでございます。東京電機大学ですか、セブンイレブンさん等の協力を得られる予定でございます。

29ページをお願いいたします。

花畠地区「花畠ぐるりん」の実証実験開始等についてでございます。

こちら10月20日から運行を開始しているところでございます。運行期間、頻度については記載のとおりでございます。

利用状況でございます。真ん中のところにグラフが付けてございますけれども、スタートの10月20日から33件、18件ということで、多い日と少ない日と、交互に来ているような状況がございます。利用状況は以下のとおりということで、午前中の乗車が多い傾向があります。それから、乗車はやはり一番始発の部分の花畠八丁目アパート前、桑袋周辺が多くて、降るのは花畠五丁目のベルクスの前が多いというような状況でございます。

お進みいただきまして、30ページをおめくりいただけますでしょうか。

バスの停留所の表示がちょっと小さかったということで、改修等をさせていただいているところでございます。

それから、10月20日のスタートに先立ちまして、10月15日に区役所の本庁舎の方に来ていただきまして、セレモニーを実施したものでございます。

31ページの4番ですけれども、地域ぐるりんの周知活動ということで、住区センターですか、それからセブンイレブンさん御協力いただきまして、店舗前にのぼり旗を掲出いただいているような状況でございます。

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

32ページでございます。今後のスケジュールですけれども、今、利用者のアンケートを実施しているところでございます。これから運行の計画の内容を見直しを図りながら、それから、今の予定では、来年の2月に運行ダイヤの変更を予定しているところでございます。

後ろの方の資料につきましては、日々の運行の状況、それから運行ダイヤですとか、それから停留所ごとの乗降者の数等を記載させていただいておるところでございます。

私からは以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○しぶや竜一委員長 それでは質疑に入ります。

何かございませんか。

○白石正輝委員 舎人ライナーのことについて少々お伺いしますが、昭和40年代に、昭和ですよ、昭和40年代に、私たち自民党の足立支部連合会の中に、地域の町会・自治会の会長を委員とした足立区北西部に地下鉄をひく委員会というのをつくったんですね。そのときはまだ11号線できません。計画はありましたけれども、できていませんでした。その11号線ができれば、バスの輸送はできることは分かっていたのですけれども、ただ、バスではとてもとても通勤通学には間に合わないということで、地下鉄を引こうということで委員会を開いて、ずっとそれ以降活動を続けてきたわけですけれども、そのときに、地元の町会・自治会長の方々がどういうことを言っていたか、分かりますか。

○交通対策担当部長 本を読んだことがあるのですけれども、申し訳ございません、そこまでは。

○白石正輝委員 まだ生まれたか生まれてないか分からないから、その当時のことは分からるのは当たり前だと思いますけれども、放射11号ができればバスの運行はしますというような東京都が約束していたのですよね。でも、バスで通勤通学を考えると、時間が掛かり過ぎることと時間どお

り行ってくれないということで、できたら地下鉄をひこうということで運動を続けてきたわけです。

バスは通勤通学には向かないということなんですが、そのことについてはどう思いますか。

○交通対策担当部長 舎人ライナーが実際に建設が始まると、非常に道路としては混雑が激しかったということは、そこは私も体験しているところでもございますので、そうであると思います。

○白石正輝委員 舎人ライナーが計画された後に、時の東京都の知事の石原知事がおいでになって、11号線沿いには人家がないじゃないか、こんなところに電車走らせたってキツネかタヌキが乗るのかというようなことを言って帰ったんですね。

なぜ11号線沿いに人家ができなかつたと思いますか。

○都市建設部長 都市計画的な話をすると、あまり高層な建物ができるない都市計画の規制が掛かっていたからではないかと思います。

○白石正輝委員 これの理由ははっきりしているんですよ。交通網がしっかりしていないから通勤通学ができない。バスでは時間どおりに行ってくれないから、だから人家が増えなかつた。舎人ライナーができた途端に、ざーっとマンションが建つて、人家ができたわけですよ。だから乗れなくなってしまった。ラッシュになってしまった。

今度のこれは、バスを走らせるというのは足立区から頼んだんだということになっているのだけれども、本当なんですか。足立区から本当に頼んだからできたのですか。それともラッシュを何とかしなければいけないという東京都の考え方があったのですか。

○交通対策担当部長 白石委員おっしゃっていただきました東京都もそうですし、区の方でもそうなので、今年の1月に要望書を提出させていただいた中で、是非実験を実施してほしいということを要望しております。

○白石正輝委員 新しい線ができる、ラッシュで乗

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

れなくなるというのは舍人ライナーだけではないんですよ。同じ時期にできたつくばエクスプレスも一緒なんですね。

つくばエクスプレスはどういう形で解決しようとしましたか。

○交通対策担当部長 便の編成を、快速等の編成を切り替える等をやっております。また、これから、今進めているところでは、今6両編成のところを8両化を進めているところでございます。

○白石正輝委員 つくばエクスプレスは、この解決のために列車の連結を多くしたんですね。多くするためにはホームを長くしなければいけない。ホームの工事もやらなければならないわけですよ。そのことをあえて2年目にやったんですよ、つくばエクスプレスは。ラッシュになった2年目にやった。何で舍人ライナーだけはそれができないのか。バスを走らせればそれでいいというわけではないと思うんですよね。

副区長、バスは通勤通学には時間的な問題でなかなか向かない。だから舍人ライナーを走らせたわけ。舍人ライナーがいっぱいになったから、じゃあバス走らせれば解決だということで解決したと思いますか。

○副区長 私も沿線に住んでおりまして、バスの渋滞を経験しております。

ライナーのところに聞しましては、増便等、様々な緩和策を実施しましたが、なかなか効果が上がらないということで、一種ほかの手法も考えなければいけないということで、考えられたバス路線の利用なのかなというふうに認識をしております。

○白石正輝委員 もうこれで終わりにしますが、バスを走らすのは、単に一時的な解決なんですよ。しようがないからバスに乗ってくれということは一時的な解決なんです。基本的な解決にはなっていない。このことを足立区の執行機関は全員が同じように考えていただきたいと思うんですよね。

基本的に、抜本的に解決するとすれば、ライナ

ー今5両編成ですよ。これを6両にし、7両にする。ホームを伸ばす。これ以外に抜本的な解決のしようがない。

もっとたくさん走らせると言ったって、今、ライナーは一番ラッシュの時期は3分ちょっとで1台走っているんですね。これが1分にできるのか、2分にできるのか、そんなことはなかなか難しい。だとすれば、ホームを延ばす以外ないんです。ホームを延ばせば、1両、2両という連結を増やせられる。このことについては、足立区の執行機関はしっかりと考えて、バスを走らせたから終わりではない。バスは単に一時のぎなんだ。こういうことをしっかりと理解しながら、東京都と今後検討していくかなくちゃいけないと思うんですよね。

足立区さん言ったことはバスだから、バスは走らせたじゃないかと。そういうことで東京都に逃げられてしまうと、抜本的な解決にならない。

交通対策担当部長、基本的には東京都と交渉していく上で、バスが終わりではない。バスは一時的な緊急避難なんですよ。基本的に解決するためには、ホームの改良、それから連結を増やす、それ以外に方法はないんだということで交渉していくだけですね。

○交通対策担当部長 混雑率につきましても、今年177ということでございますけれども、この先もまだ上がっていく状況でございます。そうした根本的な解決という意味では、白石委員おっしゃっていただいた内容が、それをお願いしていく必要があるというふうに考えております。

○石毛かずあき委員 私からもまず、引き続き舍人ライナーのバスの件で少しだけ確認なんですが、実証実験終わった後というのはどのようになっていくかという、考え方というか方針というか、足立区としてはどうしていくかというのは何かできているのですか。

○交通対策担当部長 今年度まずこれをやらせていただいて、その中では、当然人の動きの調査、あ

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

るいは利用者へのアンケート等を実施させていただいて、そうしたところから、やっぱり課題が何だったのか、利用いただいた方にはどういう効果があったのかとか、そういった様々な分析をしながら、今後について東京都と、年度が変わってしまうと思うんですけれども、新年度に入った段階で、そういったことを検討を進めていくようになりますかと思っております。その結果として、その先についてどうしていくかということの検討になっていくと考えております。

○石毛かずあき委員 まず利用者がどの程度で、また、どれだけ★★ができるのかというところが大事で、ただ、一番やはり大事なのは、先ほど白石委員からもありましたけれども、抜本的改革は当然そうですけれども、これがこれで実証実験で終わってしまって、その後、もうどうにもならないよといったことだけは避けてもらいたいなというのが気持ちとして、当然利用者はあると思うんですよ。ですから、そうしたことでも踏まえた上で考えなきゃいけないのですが、今回、バスやりますよね、実証実験。そこで先ほど御説明いただきましたけれども、なかなかその実証実験のこうした事業に対して、どれだけ事業者が、魅力があるのか私には分かりませんけれども、その中で、不備があったということで、今回、区内事業者ではなかったという御説明がありました。そもそもなんですけれども、こうした期限付の実証実験で、区内事業者のバス事業者さんが積極的に取り組んでいきたいというような感覚はあったのかどうなのか、それちょっと教えていただけますか。

○交通対策担当部長 こちらについては、昨年、東京都と実証実験をやっていくというお話を進めさせていただく中で、やっぱりバスの調達が重要になってくるということで、そうした場合にはバス協会さん等にお話を差し上げて、あるいは地域にもバス事業者さんたくさんいらっしゃいますので、そういった方の御協力を得られるような方策を考

えていく必要があろうということで、最初にまずこういった実験の実施を予定しておりますという話から始まっていますので、その中では、地元の事業者さんたちも、我々も協力できるのではないかというふうに思っていらっしゃったのではないかというところはございます。

○石毛かずあき委員 そのお気持ちは大変うれしいですよね、同じ区内事業者として、区民として。

ただし、なかなかの体力が必要だと思うんですよ。もうかれいですよ、3か月でも、やれば。そもそも今、バス運行事業者さんの体力が落ちてきているから、だからはるかぜの減便もあるわけであって、その中で、これを求めるというのもちょっとどうなんだろうと思った中での今回こういった結果だったので。やってみなければ、それもよしあしは分かりませんけれども、やはりそうしたことでは、謙遜しているのか何だか分かりませんけれども、不備だとおっしゃっていましたけれども、ある程度広げた上でやらないと、多分これうまくいかなかつたのではないかというふうにも取れますし。なので、しっかりとその辺、契約のことなので私は何とも言えませんけれども、あまり不備というような感覚ではなくて、3か月しっかりとちゃんとやってもらいたいんです、要は。途中でできませんでしたではなくて、先ほどおっしゃったとおりに、バスを手配が急遽できなくなつた、★★できなくなつたと言うので、これ実証実験3か月間やれませんでしたということだけは絶対避けていただきて、しっかりと実証実験を行っていただいて検証してもらいたいと思うんです。いかがですか。

○交通対策担当部長 今回、この形で進めさせていただくということにはなっております。当然、受託事業者さん等々ともしっかりと調整をしながら、間違いないように、日々、進めてまいりたいというふうに考えております。

○石毛かずあき委員 どうぞよろしくお願ひいたし

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ます。

自転車に関する事故について少しお話しさせてもらいたいんですけども、せんだっての決特でも、私からも、また、他の委員からもテーマとして上がっていた取組ですけれども、今後の取組にも記載されてますけれども、特に若い世代、今回16歳から、いわゆる青切符の対象者になるわけで、こうした若い世代に向けて、4月から実施されますけれども、今後、この若い世代に対してどのように伝えていく必要があるのか、お聞かせいただけますか。

○交通対策担当部長 決算特別委員会の際には、教育委員会の課長から御答弁があったかと思うんですけども、中学生がこれから16歳になるに向けて、こういう青切符の制度があるから、自分たちも対象になるんだよということをちゃんと教育してまいりますというお話をございました。

非常に重要なことだと思いますので、私どもも協力できるところでしっかりとやられていただきたいと考えております。

○石毛かずあき委員 その協力が本当に大事で、ただ、今おっしゃったように、今度こうした制度になるよ、なりますよだけでは、若い人たちは全く気にしないと思うんですよ。ですから、どれだけ興味を持たせて、若い人たちに理解を深めさせて、行動変容にどうやってつなげていくかというが必要で、今後の取組もSNSでも発信するというふうに言っていますけれども、それだけ発信してもなかなか難しいと思うんですね。

ですので、ある程度、見て分かるような、それこそ若者が気を引くような動画みたいなものでやらないと、全くその辺分からぬのではないかなと。これから制度が始まっていますから、しばらくたてば、皆さん、なくなりますよ、払うの嫌だからと言っていちや駄目なんですよ。その辺いかがですか。

○交通対策担当部長 周知の点では、特に広報等も使いながら重点的にやらせていただきたいというふうに考えております。また、特に区内の都立高校さんには自転車で通われる方がたくさんいらっしゃいますので、こうした方向けにも、街頭にて指導をするような形の、来年度の初めからになるのですけれども、委託事業も準備しているところでございますので、そういったところで、見えるような形でもしっかりとやっていきたいというふうに考えております。

○石毛かずあき委員 どうかよろしくお願ひいたします。それ本当に大事なところなんですね。

それで、足立区のことではないんですけども、今年11月4日に更新されている情報なんですけれども、日刊警察ニュースで、愛知県なんだけれども全国で初めて高校生を対象としたアンケート調査というのを行ったんですって。そうしたら、そもそもこの制度や違反の重みを知らない。やることは分かっているんですよ、テレビとかみんな見ていますから。でもどれだけの重みがあるかということが全く分からぬという方が6割以上いたそうなんですね。

ですので、今おっしゃっていただいたような、こうしたことをしっかりと取り組んでいただき、こうした認識をしっかりと持つていただけるような取組をしていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願ひいたします。要望で結構です。

○小泉ひろし委員 私も、まず最初に日暮里・舎人ライナーの件です。

仕様書の部分で不備があったということで、ヤサカ観光になったということですけれども、やはり区内事業者で体力があれば、それにこしたことないわけですけれども、チャレンジできる道だけは残していく意味でも、しっかりと今後はその辺を配慮する必要があるなというふうに思います。ヤサカさんは比較的近いということで、総合的に対応できるかなと思います。

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

また、混雑対策という部分では、短期、中期、長期というものの見方をすると、根本的な長期については、やはりハード的にホームの延伸も、白石委員もお話ししたとおりで、そういうところもしっかりと東京都にやっていただきなきやいけないし、できれば国の予算なんかも付けていただきたいような、そういう案件かと思うのですが、中期的にはダイヤ改正だと、その辺も今までやってきましたけれども、この中期的な対策としてのダイヤ改正、今までダイヤの短縮を、間隔をすごくやってきたわけですけれども、この辺の可能性はもうないのか、研究しているのかということがまず情報分かったらお願ひしたい。

あとは、短期的なところであれば、1編成の輸送量を増やすという部分では、新型車両になって増えて、残り2編成が実施待ちということなんですけれども、この辺についても、短期、中期、長期にわたっての今の現状について、都の方とやり取りしているのか、その辺について伺います。

○交通対策担当部長 中期的なところにダイヤ改正の可能性というようなお話をございましたけれども、そちらについては、今、一番ラッシュの時間で3分10秒だか15秒ぐらいに1本ずつぐらいのところで出ているのですけれども、そこを少し10秒でも詰められれば、いわゆる1時間に1本増えるような形にもなってきてまいりますので、非常に混雑率に対する効果は高いのかなというふうに考えております。そこについても、まだ事務方のレベルではあるのですけれども、そういう検討ができないのかということは話はしておりますので、要望としてまたお願ひするような形を取っていけたらなというふうに考えております。

それから、車両の入替えなんですけれども、残りがまだ4編成ございます。走り始めたときからの年数になってきますので、順番に変わっていく予定ではございます。確認はさせていただきます。

○小泉ひろし委員 ライナー開業して以来、輸送人

員も、報告にあったとおり、コロナ前から回復して、それ以上に伸びておりますし、沿線沿いでは一般的な戸建てではなくて、高層マンションとか、またはワンルームがどんどん建設が進んでおりますし、今後ますます本当に混雑が緩和されるし、そこに持ってきて、外国人の方も随分利用しているなという姿も見受けられますので、その辺しっかりと声出していただきたいと思います。

次に、簡単なところですけれども、自転車用ヘルメット補助について、期間延長、増額については、他区の動向を注視しながら、令和8年度においては検討していくことですけれども、他区でもやっているわけですけれども、額だとか見極めて、決断、スケジュールというか、令和8年度7月以降に実施する、または、もしそういうところが決まれば広報もしなきやいけないので、その辺のスケジュールをまず確認したいと思います。

○交通対策担当部長 ヘルメットの補助については継続ということを考えさせていただいております。ですので、今の段階としては、一応、令和8年度の当初からということですので、4月からということで継続を考えさせていただいております。

金額につきましても、これから最終の詰めにはなるんですけれども、当初予算について、今、詰めておりますので、その中で、しっかりと見積もらせていただきたいというふうに考えております。

○小泉ひろし委員 たしか4,000円ぐらいのところなかったかなというふうに思うんですけれども、しっかりと他区に負けないようにお願いしたいと思います。

はるかぜの路線維持事業の進捗なのですが、AIを活用して運行ダイヤの最適化に向けて、いろいろ2月までにまとまるよう努力するという報告ありましたけれども、これ税金使って廃路線になったところと、こうやって税金投入して維持しているところとあるわけで、税金をこんだけ投入してやっている限りには成功してもらわなきや困

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

るのですが、状況というのはどうなんですか。最適化を図るためにA I導入するわけなんだけれども、税金投入しがいがある実績なのかどうか、その辺についてどうなんですか。

○交通対策担当部長 こちらにつきましては、東京都の事業ということで、足立区から手を挙げさせていただいて、当初、東京都で、最初にそこの事業者さんに対して300万円ですかね、出していただいている状況がございます。足立区としても、こちらの事業者さんに対しては1,600万円ほど費用を負担する形で今進めているところでございますので、内容として最適か、利用者にとっての利用しやすい形、あるいは便が少しでも増えるような形、そういったもので御利用の皆さんに理解いただけるような形に進めてまいりたいというふうに考えております。

○小泉ひろし委員 最後にしますけれども、地域内交通導入サポート制度の今後なんですけれども、まず二つの地域はこれから取り組むという話ありましたけれども、はるかぜ10号の廃止を受けてということで、町会・自治会等に勉強会をやったということなんですが、10号について言えば、そもそも以前もお話ししましたように、扇地域の方々は、西新井駅だとか区役所方面に行く足がないと、そういう交通不便の声が多かったところから中部の路線ができた経緯もあるのですが、この勉強会開催された以外に、結構大きい都営住宅もあるし、町会もあるわけです。そういう方々が利用していて、いろいろな御意見をいただいてきた経緯もあるわけで、例えば、扇一丁目第2アパート、第3アパート、例えば町会で親友町会は勉強会やったのかもしれません、扇一丁目北町会だとか、隣接するところいっぱいあるわけで、もう少しあみだ橋の交差点に近づくと扇三丁目団地の方々も随分利用していて、そういうことがあるのですが、この辺については西新井だとか区役所方面の足だけに限らず、ライナーに接続する目的で

も利用されて、扇大橋経由高野駅となった経緯があるわけで、この辺の勉強会の考え方だとか、意見の集約というものをどのように考えているのでしょうか。

○交通対策担当部長 やはりはるかぜ10号を利用されていた皆さんが特に移動に不便を感じているというようなお話をもいただいております。

そうした中で、報告資料の方にも少し掲載させていただいたのですけれども、もともとライナーの方へも行けたというようなことも、配慮が必要ではないかというようなお話がありますので、その中で、皆さん方で利用いただく、最終的に運行させていく内容としてどういうものがいいのか、なるべく多数の方の意見が取り入れられる形の交通の形態にしていくことが必要かなというふうには考えておりますので、まず意見は、今もほかの周辺の町会・自治会の方からもいろいろいただいているところでもございますので、しっかり集約させていただいて、また御報告をさせていただきたいと思います。

○しぶや竜一委員長 他に質疑ございますか。

○中山ちえ子委員 いろいろ今日質問したいこと結構あるんですけども、ちょっと絞ってやります。

先ほど地域内交通導入サポート制度の新しいはるかぜ10号の廃止を受けたところ、扇などの★★などのところなんですけれども、やはりこれまでやった、実証実験やっている最中の花畠とか常東とか、そういったところの教訓というか、そういったものがしっかり反映できるようにしていただきたいんですね。これからまた更に広げるところにはそういった説明もしに行くという話なんですけれども、先ほど小泉委員からもあったように、やはり最初にボリュームをちゃんと持って尽くしていく必要があるというのがこれまでの教訓だと思うんですけども、予算面でもそうだし、人もそうです。対象とする、説明する、それから協議会をつくっていくもそうですけれども、ちゃんと

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ボリュームを持った、対象に説明なり、どうしていこうかという、この町の問題なんだよということでお話ししていくことが必要なんだというのが分かったと思うんですけれども、それを生かしていく心構えというのはあるのですか。

○交通対策担当部長 これも以前、委員会で少し報告させていただきました予算取り等の形については改善させていただくということで、枠で取らせていただくような形を考えているところでございます。また、区の側の職員の組織定数ですか、そうしたところについても府内でも配慮いただいているところでございます。

また、相手方の協議会等として、地元で結成いただく中についても、しっかりと皆さんに周知ができた上で参加いただく、あるいは途中からでも参加できるような形というのをしっかりとお願いしていきたいと思います。

○中山ちえ子委員 本当に大切なことで、これから検証していくわけなので、何を検証するのか、そしてそれによって新しい政策はどういうスパンでやっていくのかとか、そういったことが地域と事業者と区が3者で協力して考えていかなきゃいけないという、かなり協議会は町会・自治会長だけでいいというようなことではないというのがこれまで分かってきたことなので、その辺はちゃんと丁寧にやっていってほしいと思うのです。

そして、やはり先ほどデマンドを望んでいるというような声もあったという話ですけれども、デマンドというのは、要するに予約ですよね。予約して乗るというものです。それについては、AIシステム会社を協力する事業者としてやっている状況もそうなんですけれども、大変予算が最初に、事業者に掛かるお金というのが、掛かっててしまう部分があると。でも、はつきり言って、国交省から出している補助金なんか見ますと、自治体だけではなく、例えば、事業者と一緒にになった協議会が申請することができる補助金があつたりと

か、いろいろあるのですけれども、そのたびに、その地域ごとがこの苦労を、要するにしなきやいけないのかというところもちゃんと考えなきやいけないと思うんですよ。

花畠ではやはり予算を絞られているというところもあって、いろいろなところで乗ってもらうための工夫ができないでいるのですよね。それは多分御存じだと思うのですけれども、鷺塹町会の会館前の停留所では、椅子をちゃんと備えてほしいよねという話が協議会や意見交流会の中で出て、でもそれどうしようということで、町会が骨を折って、パイプ椅子を持ってきてくれて、パイプ椅子、でも風で動いちゃうからというので、柱にくくりつけてやってくれたりとかしているんですけども、やっぱりそういった努力だとかが一人歩きしちゃうというか、やればいいでしょうと、そこの責任にさせてしまうみたいな、それ鷺塹町会のかなりずっと頑張っているベテランの奥様がおっしゃっていたりして、みんなで工夫しているというのが今の段階で、そういうことをどう考えて検証項目にしていくのかといった視点がない。ただ、次、扇とかやるときに、また更にいろいろな問題が出たときに、場当たり的に対応していくということになっちゃうと思うんですけれども、まず聞きたいのが、各地域で新しくやられる地域交通の中で、必要だなと思った事業者との連携とか、それについて必要な、そして申し込むことができる補助金だったりとかというのを、どういうふうに整理していくのですか。

足立区全体でやるというものの、例えば先ほどのはるかぜの一部、存続維持が必要なはるかぜへの補助金というのは、こうやって国の補助金とダブっちゃったから、1,000万円近くもEVだと掛かるための予算を区からの予算を返しますということになっちゃっているわけじゃないですか。こういううざさんな状況だと、一方では。だからやっぱり地域交通は、では一方でどうかと言つ

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

たら、共済金集めると、1日これだけ乗らなきや、50人程度乗らないと赤字なんだよと、協賛金集めろということで言っているわけですよ、一方で。その辺をどう整理するんですか。

○交通対策担当部長 地域内交通としてはサポート制度を創設させていただいたのですけれども、1人を運ぶのに1,500円程度の費用で何とかならないかということでの検討でございます。

はるかぜの方を今試算をしておりますと、今、利用者1人当たりに対しての支出ということになると、約300円ほど出しているような状況がございます。そうした中では、やっぱり利用が多いという状況に対しての費用支出になっているかと思います。

サポート制度全体の話なんですけれども、今年から2か所スタートさせていただいておりますけれども、これからまだ、先ほどの報告の中でも、扇の地区ですか、そのほかでも御意見をいただいているところもございます。この先、区としてどういう形で進めていくか、中山委員御指摘いただきましたように、あれやこれやということで、そのたびに新しいことへの対応というふうになるのではなくて、少し整理をして、足立区としてどういった形の地域内交通がいいのかということについても検討を進めていきたいというふうに考えております。

○中山ちえ子委員 それで、個々の地域交通の検証のところの問題に入った質問をさせていただきますけれども、花畠では検証運行が始まったのが10月20日だったと。それに間に合わせるように、間に合わなくても数日過ぎたときまでに、全戸配布の花畠ぐるりんの時刻表と経路が載ったパンフレットをしっかり届けるということになっていたと思うんですね。それが花畠の1丁目から8丁目だったと。これがうちのところに来ていないというような、いろいろな意見を聞く中でもたくさんの方々の声が上がってきていて、まだ配られてない

よというところがたくさんあったわけですね。それをやはり協議会が真面目に受け止めて、どうしたんだろうということで何回も問合せていましたということなのですが、動いたのがかなり遅くなつてからの対応だったということを聞いています。一方で、桑袋は同じチラシがまた配られたよというような声が聞こえてきているということで、どうなっているのかということですね。

ここを確認したいのと、これだけを聞きたいのではなくて、こういう状況で、1日50件乗らなくちゃ区が決めた費用を上回ってしまうから、これはマイナスの評価だということにしてしまうことと照らし合せても、大変不合理な状況だというふうなことを言わざるを得ないんですけれども、こういった責任や、それから担当の職員さんがなぜ早くに受け止められなかったのかという問題があると思うんですね。

これもいろいろなことがあると思う。走り出してからそれは対応しますよとおっしゃったことがたくさんあったと思うんですよ。走り出してから、こうやって不手際があったわけなんですね。これについて、どう問題だと捉えて、次どう考えていくのかということは知りたいんですね。これ自体の問題を問題だと言っているわけではなくて、やっぱり初めて踏み出した区と地域協議会と事業者の連携の実証実験です。そして、初めての定路定時路線だということで、大変なところもあるかもしれないけれども、それに臨む姿勢というのが私は問われているのではないかと思うんですね。

こういうことがあったこと、それからこれだけじゃなくて、試走会といつて10月20日から始まるものに対して、1週間2週間前からちゃんと試走会というのをやろうというふうに提案していたときに、初めからちゃんとまともに対応しなかった、区は。でも、そもそも人が足りないのではないかという問題があって、一概に職員個人を責めるつもりもないんですけれども、そういうとき

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

も事前に支払った事前費という事業者に対しての費用がどう使われていたのかなど疑問に思うぐらい、経路を間違えちゃったり、ここに降りますよと言ったことが聞き取れなかつたりとか、そういう声が聞こえてくると。何で経路を間違えちゃうのかって、それ1回だけとかではなくて、何回も聞くわけなんですよね。そこについてすごく苦労していると。だから最初の協定で事業者と結んだ約束だったりが、最初から言われてたように、3者の協議になっていない。区と事業者との協議だけになってしまっていたのがこういった問題を引起しているのかなど。信頼関係ですからね。なので、その点についてこの2点、走り出してからの大変な状況、これについてですね。

○交通対策担当部長 周知のためのチラシについては、印刷会社さんに委託契約をして配布をお願いしたところなんですかけれども、事実としてやっぱり配られていなかつたところがあったということで、それに~~ついて~~は再配達をしてもらうということで、今早急に動いているところでございます。

また、サポート制度の話について、利用者の数と、それでこのルートが利用されているかということの評価、そうしたことについても、すぐされてしまうということにつきましては、これは、やはり周知の期間というのも必要だということこれまででも議論があつたかと思うんですけれども、年度末に向けて制度の改定も予定しておりますので、そうした中では、例えば最初の3か月については、周知の期間であるそこから継続するんだつたら継続する期間であるといったことも少しお示しをさせていただいていたと思うので、そういうことが採用されるようにしていきたいというふうに考えております。

それと、試走会の件ですとか、あとタクシーの事業者のこと等についても、やはり事業者さん、最初の決定する段階においても幾つか御訪問をさせていただいてお願いしたんですけども、なか

なか協力いただけるところがなかつた中で、地元で協力いただけるということで今回やらせていただいているところでもございますので、そうした中で、当然タクシーの運転をされていた方がバスの運行のようなルート運行という形になりますので、なれない部分もあろうかと思います。そうした中でありますので、しっかりとお伝えはさせていただきたいと思いますので、一緒にこの花畠ぐるりんをしっかり進められるように、我々としても協力していきたいというふうに考えております。

○山中ちえ子委員 先ほどなれない部分もあるタクシー事業者が経路提示線のように、バスのような運転の仕方でやるもので、なれないということがありました。本当にそのとおりで、だからこそ、初めに協議会が事業者と区と3者でちゃんと連携していきたいのだというふうに訴えていたわけです。

なので、最初、そういったなれない部分というところの中で、どう改善していくかということは検証項目に太く位置付けてほしいのですけれども、どうでしょうか。

○交通対策担当部長 今、山中委員おっしゃっていただいたようなところでは、スタートの段階からというようなお話かもしれないのですけれども、また、事業者さんも地域の協議会の皆様はいろいろなお話を、御意見をされますので、その場で答えなければいけないような状況になってしまいますと、それはそれでなかなか難しい状況が起きるのかなということで、間にむしろ区が入つた方がうまく進む部分もあろうかと思います。少しずつお互いの距離を縮めていくような形も必要かなというふうに考えておりますので、そういういたところについては是非検討させていただきたいと思います。

○山中ちえ子委員 区がそこに入つていい方がいいのかなとありましたけれども、そのとおりで、やはり区が役割を果たすのはどこなのかなという

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ところもこの検証でつかんでいってほしいと思うんです。これ2種免許持っている方でこういう状況なわけですから、地域の安全を守るということもそうですし、こういった検証実験にしっかりと力を尽くしていくためにも、やはりそこは研修とか、区の役割とか、1人の運転士さんだけではやっぱり足りなかつた。大変重い重い仕事だったんだということが検証されていくようにしてほしいし、車両をどうするのかといったところでは、例えばこの間こういうことがあったということを聞いていて、折り畳めないシルバーカーで来た方が二つの席を取るぐらいのスペースで乗って、そういうことがあって運転士さんがとても気にされたというお話を直接協議会の方で聞き取ったらしいんですよ。そういったことだとかをどう考えているんですか。

障害者差別撤廃法に基づいた車両にしていくということでも、レンタルで、しっかりと10人乗りぐらいのスペースで、そういう定路定時にそぐうというか、そういう車両にしていくこうといった話とかもあるのですけれども、リースだったり、購入だったりで考えていきますよとおしゃべりの中では言っているけれども、それがどういうふうにスパンで借りられるのかとか、レンタル申込むにしても、そのときは空いてなくても、3か月後には空いているかもしれないとか、そういうものじゃないですか。だから、そういう報告も一つもないということなんですね。

なので、その辺はおしゃべりで終わらせないで、真剣に検討しているんですよとか、ちゃんと返していくべきだと思いますが、どうでしょうか。

○交通対策担当部長 車両の件につきましては、これまでやはりお話をいただいているところでございます。現状の利用としては、シルバーカーについては折り畳んで乗車いただくということ、それが難しい場合には後部の方に上げて乗せてもらうというような形であったかと思います。また、

今、山中委員おっしゃっていただいた方がどうかはあれなんですけれども、やはりシルバーカーで乗せられなくて、もう1台後ろに付いていた車に乗ってもらったというところもあったかと思いますので、今現状としてはそうした形で対応させていただきたいと思います。

また、車両については、区の方でも何とか準備できぬいかということで今検討を進めているところでございますので、もう少々お待ちいただきたいというふうに思います。決めるのにお待ちいただきたいと思います。実際に予約をしてからでもやはり1年ぐらい納車までに掛かってしまうという状況がございますので、そういったことも含めて早めに措置をしたいというふうに考えております。

○山中ちえ子委員 分かっているんです。だから協議会も分かっているんですよ、そういう大変さがあるというのは。でも、そのことについてはこういうふうに検討しますよと、いついつまではこの件が具体にお示しできますよとか、それは4月からの問題ですか、そういうようなことをちゃんと言っていく必要があるのかなと思っているんです。

あと、先ほどのチラシの件なんですけれども、どこに配られたか分からないというところがあるから、多分、桑袋に2回チラシが行っちゃったんだと思うんですね。なので、配られていないところに配ができるのであれば、2回目の印刷もいいと思うんですけども、その辺はちゃんと協議会と、あと、印刷会社の方たちと考えて対応していくかなきやいけないと思うのですけれども、その辺はどうでしょうか。

○交通対策担当部長 実はその件、昨日、地元の区の町会・自治会連絡協議会の会合がございました、参加させていただきました。その席で私の方から、配布のされてないところがあるのでということで、改めて全戸に配布させていただくという

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ことで今進めているということを御報告させていただいております。

○中山ちえ子委員 私、こういったいろいろな問題があつて、地域交通の検証実験を10の地域でやっていこうというような目標を持ってらっしゃると。そういう中で、一つ一つやっている中で、もうデマンドでいいやみたいなふうになっていっちゃうというようなところがすごく懸念していて、そこに、今回花畠ではみんなで情報を共有できるようにと言って、花畠ぐるりんのLINE公式をつくったり、スマホ教室をやろうとかと言って工夫したりとかしているわけです。そういうのが協議会だけの努力に任せられることになってしまつたのが問題だった。それには対応して、次の地域に生かしていくと先ほどおっしゃったんだけれども、やっぱりバス事業者など協働した運営というのができれば一番いいのでしょうかけれども、交通事業者の協働のネットワークをやっぱり区がつくることはできると思うんですよ。なので、そういう区の関与というか積極関与が必要なのかなと思っているんです。だから、そこの地域だけとすることで集中してやっていってしまうとちょっと大変なんだろうなと。なので、区内全体を網羅した地域交通を確立していくとか、そういうことが必要なかなと思っているのですけれども、この間、採択された陳情にも項目として載っておられます。

この件は採択もされていますし、この間やつた検証実験を踏まえて、これについてどう考えているか。

○交通対策担当部長 先ほどの答弁と重なるかと思うんですけども、こうした今モデル的に実施させていただいている内容をしっかり解析しながら、この先についての区の進め方についても検討していく予定でございますので、その中では議会の方にも御報告させていただいて、議論いただきたいというふうに考えております。

○しぶや竜一委員長 質問が重なつてるので、中山委員、簡明にまとめていただければ、お願ひします。

○中山ちえ子委員 タクシー事業者とのネットワークを重視するということも考えるということですか。

○交通対策担当部長 今御意見いただいた内容についても、将来的にはそうしたところも必要になってくるかなというふうには考えております。

○しぶや竜一委員長 他に質疑ございますか。

○横田ゆう委員 まず初めに、前回の委員会で、この公共交通の充実を求める陳情が採択されたということで、一つ一つに重要な項目があつたと思います。この実現のために、責任を持って議会は実現するために頑張って努めていかなければいけないとも思っています。

それで、第1項目めの交通基本条例を制定し、人間の暮らしと命を守る交通の立場から交通権を保障しということありますけれども、この条例についてのスケジュール的なところはどういうふうになりますでしょうか。

○交通対策担当部長 こちらについては、区議会の方に陳情の結果ですか、検討の結果ということで、改めて御報告させていただくことになっております。

○横田ゆう委員 陳情の結果として、分かりました。そして、この中の4項目めですけれども、その前に、5路線の廃止された代替のところ、それから交通不便地域の改善なども盛り込まれておりますので、ここも進めて今審議しているところだと思うのですけれども、それから4番目の免許返上の高齢者や移動手段のない高齢者世帯に、他自治体が実施しているようなタクシー券の支給を行うことが盛り込まれています。

実現に向けて検討していただきたいというふうに思うのですが、多くの自治体がいろいろな対策をしていまして、例えば、これは千葉県の八千代

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

市では、免許を自主返納した方に対して、支援事業として1枚500円のチケットみたいなものを20枚交付したりですか、埼玉県のふじみ野市では、お出かけサポートタクシー制度というのがあって、65歳以上の方とか、それから要介護、要支援の方、妊産婦さんに支給しているという、こういったいろいろなものがあります。これについても検討していただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○高齢者施策推進室長 タクシー券については現時点で考えてはいないところですが、今こうして、地域内交通ですか、各地域の交通をどうしていくということでやっておりますので、そういう状況を見ていくのが、現時点での状況なのかなというふうに考えています。

○横田ゆう委員 分かりました。これからこの陳情の項目を一つ一つ実行していくために、やはり努力が必要だと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

そして、次に、★★の舎人団地自治会の交通課題解消が課題になっているということで先ほど報告がありました。ここははるかぜ3号が廃止されたということで、この舎人団地から行く先は、赤羽行きのバスと川口行きのバスと見沼代親水公園行きだけになっていて、はるかぜ3号というのは、もちろん舎人団地を通り、入谷、八、九丁目を通り、それから、以降の七曲がりを通って西新井に行っていた線ですけれども、これがやっぱり復活してほしいというのが最大の願いだと思っておりますけれども、ほかに、主には通院が困難な方が多いと聞いていますけれども、足タクの範囲をここまで拡大するということは検討されたのでしょうか。

○交通対策担当部長 足タクの範囲ということにつきましては、他の議員の皆さんからも御質問ございまして、そこについては検討させていただいておりました。一番のネックというんですか、課題

は、やはりタクシーの配車がやっぱりそこまで追いつかないであろうということで、新規の事業者さんの募集もしたんですけども、なかなか手が挙がらない中で、今現状としてはできない状況でございます。

はるかぜ3号の路線についての再度の運行の事業者の確認等と併せて、そちらの足タクの方の拡大についての検討についても継続して実施していきたいと考えております。

○横田ゆう委員 やはりタクシー業者が足りないということがネックになっているということなんだと思うんですけども。やはり一方の入谷町会のところでは実現している足タクですので、ここ的一部分については、足タクは活用できないということでは、やっぱり待遇的に差が出てきて、問題があるというふうに思いますので、急いでいただきたいなというふうに思います。

それから、アンケートを行うということですけれども、どのようなアンケートになっていきますでしょうか。

○交通対策担当部長 こちらにつきましては、うちの職員が出向いて、先方と御相談をさせていただいた中で、やはり内容的にはほかでやるのと同じような形になるのですけれども、当然、日常の生活の中で、買物だったりとか、病院だったりとか、どういうところにどういう時間帯に行かれるとか、そういった対応を把握する目的のアンケートになります。

○横田ゆう委員 それは12月には結果が出るということですか。

そうしたら、アンケート内容と、それから結果についても、是非詳しく結果報告をしていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○交通対策担当部長 報告させていただきます。

○横田ゆう委員 それから、次のページに地域課題に向けて出張勉強会をするということが、説明が書いてありますけれども、寺町から見沼代親水公

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

園駅に向けての地域の要望も非常に強くあるのですけれども、そこでの住民のお知らせ、勉強会ですか、これをやるとなると、お知らせとか案内なんかは区の方がやることになるのでしょうか。

○交通対策担当部長 そういうお声があれば、是非お知らせいただければ、そうした中で取り仕切っていただける方がいらっしゃれば、区の方の職員が伺って、まず話をスタートさせられればというふうに考えます。

○横田ゆう委員 分かりました。よろしくお願ひします。

そして、1年以上前になると思うのですが、舎人駅の区営駐輪場の屋根を設置してほしいという地域の方からの要望がありまして、その後の進展状況はどうなりましたでしょうか。

○交通対策担当部長 舎人駅のところの隣接の駐輪場につきましては、近隣の方から土地を借受けて使用させていただいているところでございますので、上屋の固いものは建てられないというような状況でございます。

○横田ゆう委員 今、傘差し運転はもちろん駄目ですし、かつぱを着て、駅の駐輪場まで行くというスタイルに皆さんなついて、かつぱを脱いで、どこか袋に入れて、そして駅に向かうというときには、本当にぬれてしまうわけですね。どうしていいか分からぬ。とにかく雨をしのいで、そこで着替えられるようなスペースだけでもいいから、屋根のあるところをつくってほしいということなんです。

ですから、今借りているとしても、そこでの工夫ですか、大家さんに働き掛けて、何かちょっと仮設的なもの、撤去するときには、それはきちんと整備しますということも含めて、きちんと相談をしていただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○交通対策担当部長 申し訳ございません。今の部分なんですけれども、スペース的に、あそこのち

ようど舎人駅のすぐ脇にローソンがあって、その裏のところの駐輪場はちょっと狭いのですけれども、もう一つ南側の方についてはスペース的にはあるので、そういう地主さんへのお話をさせていただいた上で、何らかしっかり、風が吹いて飛んでいってしまうものでは困るんですけども、そういうスペースで雨をしのげるような形のものができないか検討させていただきたいと思います。

○横田ゆう委員 よろしくお願ひします。

○中島こういちろう委員 私から3点質問をさせていただきます。

まず1点目、日暮里・舎人ライナーのバス活用の話です。

先ほど、様々な委員から質疑がされていました。そもそも、今回JTBが落札をしたということですけれども、バス事業者ではなく、JTBさんを使わなければいけなかった理由、そういうところのまづ御説明をお願いします。

○交通対策担当部長 こちらの計画を東京都と区とで検討していく中で、やっぱり相当数の毎日毎日のバスの確保が必要になってくるということで、バス協会の方にお話をさせていただきました。バス協会さんとして、区とバス協会とで協定、あるいは契約が結べばよかったのですけれども、バス協会さん的には各社と契約を結んでくれというようなことになって、それ現実的に難しい状況でございましたので、代理店に入っていただくような契約を進めた状況でございます。

○中島こういちろう委員 各社にというところの話の中で、最終的にいろいろあって1社になってしまったという話はあったのかなというふうに思います。

また、今、バスの調達のところで御説明いただいたかと思うのですけれども、システムもいろいろ使わなきゃいけないということもあってJTBさんを使われたのではないのかなというふうに思っています。

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

そういう背景から、本来であれば最初に相談したところでできればよかったですけれども、なかなか難しいというところで、一つ調整をしていただくところに入っていたのかなというふうに理解をしたのですけれども、いろいろな委員からの御指摘もありましたが、私自身は、ここに決まるとか区内事業者がとかいろいろありますけども、仕事のプロセスの進め方にちょっと問題があったのかなというふうに感じています。やはり最初御相談をして、地域のために一緒に連携をしてやるべきだというふうに思っていたところに対して、最終的にはいろいろあったとはいえ、はしごが外れてしまったと、そういったところの食い違いが出てきてしまったのかなというふうに思いますので、今後こういったことがないように、改めてしっかりと対応をしていただきたいなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○交通対策担当部長 今、中島委員おっしゃっていただいたとおりでございます。地元の事業者さん、協力をしたいというようなお声でいただいておりました。ですので、そうした御意向があった中で、なかなかそういうふうな形になっていなかったこと、あるいはしっかりとお知らせできなかつたことについては非常に反省しているところでございます。

○中島こういちろう委員 是非よろしくお願いします。

2点目が、はるかぜ路線維持事業に関してですと、A Iを活用して運行ダイヤの最適化ですね、ベンチャー企業だってスタートアップを活用してということで、こういった取組も非常に大事だというふうに思っています。

7月8日の委員会での御報告のときに、9月の乗車のデータを活用して分析をするということで、最初は12月の予定でしたが、データの分析が時間を掛かるということなんですけれども、時間を掛かるというのは、10の388乗とおりとかで

いろいろ書かれているのですけれども、一定数最初から考えられるものもあったのではないかなどいうふうに思うんですけども、どういったところの背景でこういうふうに遅れてしまうというふうになっているのか、改めて御説明をお願いしてもいいですか。

○交通対策担当部長 条件等は提示させていただいておりまして、その中で実施ということであったんですけども、そういう意味ではスタートアップの企業さんで経験的にそんなにあったわけではない、別なところで、トラック輸送の配車の最適化を実施していた実績があるということでの今回参加でございましたので、そこにやはりバスの場合には要素が幾つか加わってくるということで、聞いている範囲では、こうした内容の条件数を1回入れて全体を回すと、大きなコンピューターでも5時間6時間掛かるとかというような状況があるというお話をございましたので、その辺で少し、我々としても情報不足の中で申し訳なかったなどという状況でございます。

○中島こういちろう委員 これは足立区というよりか、この事業者さんの問題だというふうに私は思っているのですけども、この事業者さんを見ると、結構今いろいろなところと連携をして、各自治体と連携をして進めているかなというふうに思います。連携すること自体はいいのですけども、この分析が、与える影響が、ダイヤ改正が2か月ずれてということであれなんですけれども、御理解はいただいているとは思うんですけども、改めてベンチャー、スタートアップなので、そういったところの与える影響だったりとか、そういったものがどういうものなのかということをしっかりとお伝えいただく必要はあるのかなというふうに思います。

その上で、2月にダイヤ改正ということであれですけれども、いつまでに最適なスケジュールだったりダイヤが具体的に提示されるというふうに

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

現在予定になっているのでしょうか。

○交通対策担当部長 来年のままでやるところまでを行きまして、実際にやっぱりやってみて、その状況を確認していく必要が出てくるかと思うのですがけれども、その部分では、そこを今年度の中での協定を交わしているところでございますので、その先について、区の方で引継ぎながら、一緒にもう少し直した方がいいとかいうことができるような形にはしていきたいというふうに考えております。

○中島こういちろう委員 今、ごめんなさい、私の質問の仕方が悪かったかもしれない。いつまでに一時的に、まずは先方の分析したデータが出てくるかといったところ日程です。

○交通対策担当部長 申し訳ございません。

ある程度うちの職員のところには数字が来ているそうなんですかでも、まだ固まっていないということで、そこはちょっと中身を確認しながら今やり取りをしているところですので、年内にはある程度、固定したダイヤですか、これでやっていこうというものが届くということで考えております。

○中島こういちろう委員 では、この2月に向けて、これからまたずるずる延びることはないという形で進んでいただけるのかなということで安心しました。しっかりとするところも引き続き進めていただきたいというふうに思います。

3点目が、チョイソコ×せんじゅに関してです。

先ほど山中委員からの御質問の回答にもありました、足立区としてもいろいろ実証実験が進んでいく中で、整理をしていく必要があるというお話をもいただいたかなというふうにも思うのですが、協賛金モデルの資金運用についてということで、今回協賛を出すというのは、事業者側が何かしらのメリットがあるから出すという話で、今回のメリットに関しては、ポスターとかチラシで対応されようとしているという話だと思います。

ほかにもチョイソコはいろいろな自治体で導入をされていて、例えば車内広告、動画であったりとか、あとは停留所の設置、簡易向けチラシだったりとか、通信レポートとかいろいろあると思うんですけども、今回、このポスターだけを選んだ理由というのは何か理由があるのでしょうか。

○交通対策担当部長 これがまず最初にできる状況かなということでございます。中島委員おっしゃっていただいたように、新たに乗降スポットをお店の前にとかということも考えていいかな、あるいはベンチを置くとか、そういったことでP-Rできるような形にするとかということも今検討はしているところでございます。

○中島こういちろう委員 逆に、もし検討していただいているというのであれば、メニューを先につくっていただいた方がいいのかなというふうに思います。例えば、これ単価が幾らでやるかという話ですけれども、このチラシ、協賛企業名、一番大きいところに、例えば出すのが5万円とか幾らか分からぬですけれども費用が決まると、決まった後に、停留所の設置は、どっちの方が企業側からすると、スポンサーとしてのバリューが大きいかとなったときに、どんどんこの金額をベースに上乗せ上乗せというふうになってしまふと思うんですよね。逆に、今、もしそれが足立区の選択肢としてあるのであれば、やっぱりそこはプライシングをちゃんとつくった上で話を進めていかないと、ちぐはぐになってしまったり、ややこしくなってしまうのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○交通対策担当部長 失礼しました。私の説明が悪かったのですけれども、協賛金を頂いて、協賛金の使途として、使い方ですか、そうしたところで受けてしまったので、事業者さんの紹介としては、そこでまず出していくところまでございます、今のところは。

○中島こういちろう委員 であれば、いろいろな選

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

選択肢を用意していただく必要があるのかなというふうに思いますので、車内広告であったり、チラシだったりとかというメニューを考えていただく必要があると思います。

なぜこの質問するかというのも、先ほどからのお話のとおり、実証実験で、チョイソコで千住でやっている話ですけれども、今後いろいろなところで、こういったような協賛金モデルを活用するということも一つ考えていかなければいけないということを考えると、価格帯はいろいろ変わってくるものは、乗降者数だったりとか、場所だったりとかによってあるとは思いますけれども、やっぱりそういったメニューをどういうふうにつくっていくのかも含めて、これも含めての実証実験になっていくかと思いますので、そういう意味でも、今回このポスターだけというよりかは、メニューをもう1回整理していただくというのは必要なかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○交通対策担当部長 地元の協議会の皆さんとも相談もさせていただきながら、もう少し事例も紹介して、早急にその辺についてもお話をさせていただきたいと思います。

○中島こういちろう委員 是非お願いします。

最後に、今回は常東地域でやっているので協議会の方々に相談はもちろんされると、必要だと思うんですけども、足立区として、やっぱりそういったメニューを考えておくというのは必要なことだというふうに私は思っています。そこで、その協議会の皆様がそれを使わなかったとしても、足立区として、選択肢として、例えば車内の広告を用意するであったりとかというのが、ほかの地域でも、今後、実証実験で使われる使われないという話もあると思うので、そこを選ぶのは協議会の皆様の自由だと思いますけれども、そこは今後のために、是非そういったような選択肢を持っていただいた上での議論を進めていただきたいなと思います。要望でお願いします。

○野沢てつや委員 まず5ページ、自転車走行環境の整備ということで、足立区の方で自転車ナビマークを整備してくださっているということで、非常によいことだとは思うのですが、ぱっと見、ナビマーク狭いなと思うのですけれども、ここをはみ出さずに通るのは結構難しいなと思うのですが、こういったナビマークの幅員基準みたいのはあるのでしょうか。

○交通対策担当部長 こちらは幅がたしか60センチの幅で書かれていると思うのですけれども、こちらの車道の左側を自転車が通るための誘導の印ということで付けさせていただいているものでございますので、交通の規制の標示とはまた異なる状況でございます。

○野沢てつや委員 さいたま市なんていうのは幅広のブルーレーンが永遠に続いているような道もあるのですけれども、これ自治体ごとに独自で決めるものなのでしょうか。

○交通対策担当部長 ブルーレーンができるのには、少なくとも1.5mとかというような基準がございます。

ただ、中のマーク等は、統計によって変わっているのを見ますので、そこはいいのかなというふうに考えております。

○野沢てつや委員 あと、このブルーのナビマークのところもあったり、ホワイトのナビマークのところもあったりするのですが、そこら辺の基準というものは、自治体独自で置くことができるというものなのでしょうか。

○交通対策担当部長 今御紹介しました道路の幅員等で、車の必要な幅員がございます。その横に、自転車の必要な幅員が取れるのか取れないのかによっても変わってくるのですけれども、こうしたことを勘案した上で、各自治体が計画に位置付け、そこを整備しているような状況でございます。

○野沢てつや委員 ありがとうございます。

何が言いたいかというと、車が通る道路を自転

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

車が走るわけですから、ナビマークもそうですけれども、できる限り自転車の方の安全に配慮した方向で、こういった施策を行っていただきたいということです。これは要望です。

続きまして、日暮里・舎人ライナーですね。実証実験が始まるということなのですが、乗車定員、各便45名ということで、1日3回ということなのですが、現状177%ぐらいの混雑率をどれぐらいまで下げるような想定で、これを行う感じなのでしょうか。

○交通対策担当部長 こちらも以前も御質問があつたかと思うのですけれども、この時間に1時間の中に3便のバスを走らせたということで、仮に45人着席いただいて運行した場合としても、上の日暮里・舎人ライナーの混雑率からすると、2%から3%ぐらいの減ということになろうかと思います。

○野沢てつや委員 もう始まっちゃったのでいいんですけども、これは、多分想定すると、今後、ほかにも施策をいろいろ打っていく必要があるのかなと思うのですけれども、JR東日本とかが変動運賃制とかオフピーク定期とか、そういったお金の掛からないような政策もやってはいますけれども、こういったものを検討はしたのでしょうか。

○交通対策担当部長 東京都も時差BIZということで、キャンペーン等を実施しておられまして、その中で、都営交通のポイントがたまるような、そうしたのはやってらっしゃいます。

○野沢てつや委員 ポイントがたまる時差出勤ですか。もう少し強めでもいいような気がするのですけれども、そこら辺、東京都と相談していただけて、前向きに検討していただけたらと思います。

続きまして、14ページ、北千住駅周辺における地域自転車置場の整備ということなのですが、これ自体本当にいいことだと思います。ただ、まだたしか大きなマンションが建設予定ではないかと思われまして、まだ自転車置場不足するような

感もあるのですが、そこら辺の執行機関としての認識はいかがでしょうか。

○交通対策担当部長 北綾瀬でよろしいでしょうか。北綾瀬につきまして、今回のところが整備できまと約600台ほどということであるのですけれども、実はここの区の自転車駐車場が駅の直近のところと、それから少し北側の谷中四丁目駐輪場というのはあるのですけれども、両方合わせまして約2,000台のキャンセル待ちが今ある状況でもございますので、そうした中では、まだまだ増やさなきやいけない状況でもございます。

○野沢てつや委員 先日、朝の御挨拶行きましたら、おはようおはようとオウムみたいに言うのではなくて、駐輪場増やせよとかいう厳しいお言葉をいただきましたので、是非前向きに取り組んでいただけたらと思います。要望です。

続きまして、29ページ、花畠ぐるりんということで、もう運行が始まっているということで、非常によいことだと思います。

先ほど中島委員からもお話あったんですけれども、協賛金モデル、いろいろな地区で横展開していく必要があるのかなとは思うのですが、そういった面から見ても、この花畠地区でももう手を付けてもいいのではないかと思うのですけれども、そこら辺の認識はいかがでしょうか。

○交通対策担当部長 こちらの地域につきましても御紹介もさせていただいておりまして、また、地元の協議会の皆様が主体的にいろいろとお話もさせていただいて、先日も地元の大きなスーパーさんにも御挨拶に行ったところでもございます。

○野沢てつや委員 ありがとうございます。

それと、令和8年2月に運行ダイヤの変更が予定されて、運行ダイヤを見直して最適化することなのですが、先ほどからちょっとお話がある最適化に係るスキームですね。こちらシステムを導入するとかいろいろあると思うのですけれど、花畠ぐるりんに関しては、どういったことを予定

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

していますでしょうか。

○交通対策担当部長 花畠ぐるりんについてはシステムというところでは特には予定はしていないのですけれども、運行のさせ方ということで、週3日であったのを週4日にして、そこは運転士さん1人でまずやるということで今考えているところでございます。

また、これ以外に、今、現状の中でダイヤが1回走るのに少し長く掛かり過ぎではないかというような状況もありますので、そうしたところについても短縮を図りたいというところではございます。

○野沢てつや委員 その見直しに係るスキームというのは、区の職員の方が主体的な形で行うようなイメージでよろしいでしょうか。

○交通対策担当部長 今のところダイヤについては区の方で考えていきたいというふうに考えているのですけれども、それ以外の利用者の状況ですか、そうした日々の数字が入ってくるところがございますので、そこについては、今、委託事業者もおりますので、そこでいろいろと分析をしていただく、どういうダイヤがいいのかということの御意見を伺うということも考えているところでございます。

○野沢てつや委員 区と協議会と委託事業者、3者でいろいろ考えるというのは本当にいいことだと思うのですけれども、やはり私はこの交通委員会入させていただいてから本当に常々思うんですけれども、やはりプロフェッショナル、例えばシステム、先ほどのはるかぜ路線維持のシステム化もそうなんですけれども、高度なシステムを入れたりとか、あとは交通コンサルとか、そういう業者さんもあるわけじゃないですか、そういう知見のある、それもちょっと加えていただいた上で、できる限り継続ができるような方向でやった方がいいのではないかと思うのですけれども、そこら辺に関する認識はいかがでしょうか。

○交通対策担当部長 今現在、区の方で委託契約をしているところについては、今、野沢委員おっしゃっていただいている、そこまでの事業者で、専門ということではないのかなということではございます。

やはり専門の事業者さん、あるいはダイヤの改正の専門の事業者さんというと、やっぱり大手のバス会は、年に億単位でお支払いをされているような形での契約をされているというところを伺っておりますので、これから先、行く行くは区としても、そうしたふうな規模感になってくれば、そういうことも必要になってくるかと思いますし、あるいは、地域内交通を考えていく中でも、もっと知見があるような事業者さんを見つけていきたいというふうには思っております。

○野沢てつや委員 ありがとうございます。

実際、また、この地域交通サポート制度、失敗したら、結局、億単位のお金が掛かってしまうわけではないですか。ですので、やはり一つ一つの地域が本当に継続できるような方向で、そういう最善の方向を見つけていただけたらと思います。

○杉本ゆう委員 いろいろな委員の方々から議論が出て尽くした感じもあるのですけれども、幾つか気になったところを聞かせていただきます。

最初、自転車の件なんですけれども、先ほど石毛委員からの質問にもあったのですが、問題はやっぱり自転車通学している高校生の問題、いつも長澤部長にはお話ししているのですけれども、特に、私いつもこの足立区役所の裏の区道、足立高校前の、いつも朝こちら来ると、大体朝早く来ると通学の時間とかぶると、自転車が無秩序に走っている。もうすごいんです、右から左から、前から後ろからもすごいんです、本当に。突然の飛び出しもかなり多いという、別に足立高校のところだけに限ったことではなくて、五反田の方を走っていれば青井高校の子もいるし、江北高校の子もいるし、そこら辺は周りの都立高校、自転車

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

で通っている高校に、どうしても若い人たちは、別に高校生に限らず、自分も昔そうだったのかもしれませんが、若い人たちは無茶な運転することも多々あるので、ただ、自転車だから大丈夫、これ実は若い人と、もう一つ高齢者もそうなんですけれども、そこら辺の理解がいまいちぴんと来ていない、制度変わりますよと何となく聞いたことがあるけれども、全然理解していないというのは、さっき石毛委員おっしゃったとおりなんですね。自分も中学生、高校生を相手に今まで仕事していたものですから、何となくどういう感じで感じているのか分かるんですけども、やっぱり今回結構まずいよと。具体的に、今の走り方で持っていたら、青切符切られて、罰金が幾らで、高校生からしたら7,000円とか1万5,000円とかそういう金額はかなり大きい金額になるので、そういう点での危機感を、やり方としてはちょっといやらしいというか、あんまり脅かすのはどうなんだというところも、もちろん教育的観点がどうこうと言われちゃうと話としてちょっとあれなんですけれども、申し訳ないですが、少し脅かすではないけれども、脅かすという表現ここで正しいかは分からないです。それぐらいの危機感をやっぱり持ってもらう言い方をしないと、それで、本当に摘発していたら、多分、足立区で自転車で通っている高校生半分ぐらいが捕まっちゃうのではないかという、そういう状況だと思うのと、そんなの現実的じゃないから取り締まらないのかとなっちゃうと、前、部長おっしゃってましたが、まだ警察の方もいまいち現場が分かってないという話でしたけれども、それをやっちゃうと、今度は、何だ捕まらないんだと、余計無秩序になるのではないかという気がするのですが、ただ、これは東京都に言ってもらわないと困ると思うんですね。主に都立高校ですよね、自転車で通っている子。そこで、さっきちょっと話聞いていたけれども、区の教育委員会と連携、あるいは交通対策の方か

ら言いづらいのだったら、区教委の方から言ってもらうのでも何でもいいんですけども、それやらないと、今、本当に捕まる子も増えるし、あと、本当にルールどおり真面目に走っていったら、逆にインフラの整備の方が追いついてないわけじゃないですか、自転車専用道とか、足立区にないわけだから。それはそれで今度は事故も増えるのではないかという気がするので、そこら辺の認識、特に若い人、今、高齢者もそうだと言ったけれども、若い人に対してはもっと具体的に、まだ4か月あるので、やらないと、本当に事故が起きるのではないかと気がするのですが、そこら辺どう対処されますか。

○交通対策担当部長 今の都立高校との連携という部分なんですけれども、実は今、ヘルメットの着用については、都立高校、都の教育の方からの指示が出ていて、その結果として自転車通学の子たちは皆さんもうヘルメットを持ってらっしゃる状況にはなっているんですけども、これから来年の青切符が始まるということに向けては、更に、やはり御指摘いただいたとおりだというふうに考えておりますので、我々としても、しっかり積極的に、こうした教育機関ですとかにもお話をさせていただきたいと思います。

あと、区内の4署の警察とも連携をした上で、早い時期からどういった形で周知を進めていくかということもしっかり準備をしていきたいと思います。

○杉本ゆう委員 そういった意味で来年の4月からなので、その前にも、申し訳ないですけれども、プレ期間ではないけれども、これも警察に強く、やっぱり区からも要望してもらって、別に若い人に限らず、3か月間はまだ罰金は取らないけれども、取りあえず警察に捕まるという経験をまずしてもらわないと、多分みんな危機感を持たないと思うんですけども、極端な話言っている感じですけれども、本当にこれは、こういうふうに乗っ

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ていたら本当に捕まるんだなど。だから、今回は許してあげますよと、4月以降また捕まつたら今度は罰金幾らですよと、警察に捕まえて、チラシ配ってもらうぐらいにしないと、本当に4月以降、結構、逆に今以上に危険な状況になると思うんですけども、そこら辺どうですか、言ってもらえますか。言うのはもちろん言ってくれるのでしょうけれども、どうですか。

○交通対策担当部長 今、杉本委員のお話の中でも、取締り自体がやっぱり当然警察の業務になってくるので、そのあたりについての要望はできると思いますけれども、こうしろああしろとは言えないところではございますので、しっかり要望としてはお伝えさせていただく。

一方で、区としてできることをしっかり準備をしていくということも必要ですので、そのあたりについては、先ほどもちょっとお話ししました、区の方で街頭の指導をする人間を立てるとか、そういういたことについてはしっかり準備をしていきたいというふうに考えております。

○杉本ゆう委員 分かりました。そこはこれ以上言ってもあれなので、そこをしっかりとやらないと、例えば交通網の話で、それこそ地域内交通とか、そういう話ももちろん一番重要な話でこの委員会でやっているのですけれども、こっちの自転車の話をちゃんとやらないと、本当に命に関わる事件に直結してきちゃって、例えば地域内交通の場合だったら何人利用するかとかシミュレーションして、少なかったとしてもまた次どうしてと、やり直しがきく施策と、この自転車の話は、例えば高校生が事故を起こして死んじやいましたとなったら取り返しがつかないものなので、そういうところに関してのリスクに関してはもう事前から、前、去年までいた伊藤委員がよく言っていた、取りあえずやってみないことにはどうしようもないという話していましたけれども、地域内交通とかそういう対策の方はいいと思うんだけども、これに

関してはもう当初から予想されるリスクに関しては、摘める芽はどんどん摘んでおく準備をしておかないとまずいと思います。そこは是非やっていただきたい。それは要望で結構です。

日暮里・舎人ライナーの件なんですけれども、バスの件もさっき中島委員が聞いていて、何でJTBなのかなと思ったところがあるのですが、そこに関しては、ヤサカさんになったところ以前に、なぜ間にJTBが入っているのか、さっきも聞いたので、もうこれ以上、思うところはあるけれども言いません。

その点に関してなんですけれども、これもやつてみなきや分からないので、今後、こんな江北からしか乗れないでどうするんだという意見もいろいろあるけれども、まずはやってみて、さっき中島委員も言われていたように、何でもそうなんですけれども、これに限らず、終わってからどう評価してどう改善していくかという、後のやり直しが一番駄目なので、それをやらなきゃいけないのですけれども、ただ、ちょっと1点気になるのが、今回初めて日暮里・舎人ライナーは黒字化したと報道が出てましたよね。黒字化したのは、それこそ通勤通学の人が増えたから黒字になったのか、あるいは今まで問題になっていた昼間乗る人いなくて赤字多いですよという話がいろいろあったんですけども、その黒字化した原因は、区としてはどう聞いていますか。

○交通対策担当部長 本日の情報連絡の方に舎人ライナーの各駅の利用者数が出てるんですけども、年々確実に利用者数が増えている、そこだというふうに考えております。

○杉本ゆう委員 なので、増えているから当然黒字なのは、それは分かるので、当たり前なので。どういうお客さんが増えて黒字になったのか。それこそ朝晩が増えて黒字になるのは確かなんですけれども、それをイコール、更に今の混雑の問題が更に拍車が掛かるという意味ですよね。そうでは

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

なくて、その分析はどういうふうに都の方から聞いていますかという質問です。

○交通対策担当部長 すみません、ここに限った話は私伺っていないのですけれども、一般的には鉄道会社ですと、定期を購入頂く方の数で黒字額がぐっと上がるという話は伺っております。

○杉本ゆう委員 ということは、結局やっぱり黒字の原因は、朝晩通勤通学の人が増えたからだと思うんですけども。となると、正にこの混雑対策これから更にやらなきゃいけないわけだと思うんですよね。白石委員がずっとおっしゃっているように、原因が黒字、今後ですよ、今後、この後まだ2年、3年、4年と利用者が増えて、黒字が続くということであれば、これは本気で白石委員が言っているようなことを考えなきゃいけない。

一方で、白石委員いるとこういうのちょっと言いつらいい部分もあるんですけども、例えば今後もまた昼間の利用者が少なくて、また赤字に転落するようなことがあった場合は、それだとやっぱりそこはなかなか現実的な選択肢にならないと思うんですよ。そこら辺の分析を都と一緒にしないとまずいと思うんだけれども、どうですか。たまたま今年、偶然黒字化しただけなのか。今後の経営体質というか、収益の体質としてどういうふうに都と区が分析しているのかという点。分かれば教えてもらいたいし、分からなければ今後どうするかを、方向を教えてください。

○交通対策担当部長 東京都の交通局の経営計画の中で示されている内容かと思いますけれども、単年度の黒字ということですので、車両の導入とか、そうしたものとはまた別の話になろうかと思いまので、そうした中では純粋に利用者の数が増えていけば、そこではある程度の収入が得られる、あるいは運賃を改定することで、そこが得られるというような状況が続いていくのかなというふうに考えております。

○杉本ゆう委員 最後、花畠ぐるりんの話させてく

ださい。

花畠ぐるりんというか地域内交通の話、いろいろ含めてなんですかけれども、ここに人数出でていますけれども、その後の人数、大体、今日もう11月、今日14日、もう11月も半月たっていますけれども、どうですか、人数的な部分で言うと。あと、どの時間とか、あと2週間やってきて、どういう御意見が出ているのかというところ、簡単に教えてください。

○交通対策担当部長 利用の状況につきましては、この29ページに記載させていただいているような状況がやっぱり特徴的なところでは変わらず、そういう利用がいただいております。ちょうど1月になりますと、今月酉の市が、12日ですか、あと、24日は休みの日なんですかとも、ありますと、そこでも御利用いただいて、その際に、基本的に上りが多かったんですけども、その日は下りが多かったというような状況はございます。

○杉本ゆう委員 分かりました。

これももうちょっと、とにかくさっき言ったように、この地域内交通に関してはいろいろやってみないと分からぬというのと、地域の中での御意見、地域によって違うのは分かるんですね、千住と鹿浜と花畠とで違うのは分かるんですけども、野沢委員もさっき言ってましたけれども、コストが幾ら掛かっているのかという部分もあるので、同じコストを、例えば、千住のチョイソコと花畠で同じ金額を使ってましたとしたときに、どっちのほうがたくさん、例えばですよ、日本語でうまく説明できない……、要は、千住のチョイソコで、例えば1,000万円掛かって、何人運んでますという予算があるとするじゃないですか。同じ予算を掛けて、例えば今のバスルートだったら何人しか乗らないけれども、実はチョイソコと同じように、ポイント・ツー・ポイントだったら、実はもっと需要がありますよとか、そういう比較というのも地域ごとにやっぱりしなきゃいけない

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

と思うんですよ。そういう点でどうだったんだろうと。そういうアンケートは多分してないですね。これ、今、花畠の人に関しては地域の御要望があったから、いわゆる定期運行、バス形式にしてますけれども、実際乗ってみてどうですかといふのは、今後、結構長い期間通じて取ってみないと、あと、乗らない人たちがいますよね。何で乗らないんですかというアンケートは取らないと、せっかく花畠の人たちが頑張ってやっているのに、これだって、昔の、もう2回、同じような失敗を繰り返している可能性もあるじゃないですか。今日もそうだし、協議会の話もあるけれども、そこら辺はやらないと。やっぱり一番は高齢者の人たちの足が少ない、少ないといふのはどの地域も一緒だけれども、乗らない人たちの意見というのが、なぜ乗らないのか、どうしたら乗りますかと、これ別に花畠に限らずなんですかけれども、やっぱりやっていかないといけないのかなといふのが今日の話聞いて思いました。どうでしょうか。

○交通対策担当部長 今アンケートを実施いただいているところなんですかけれども、住区センターですか花畠の地域学習センターの方に回収ボックスを置かせていただいて、その中では御利用いただくな人、それから御利用いただかない人の御意見を聞けるような形では今やっているところでございます。

今後、やっぱりそうしたところの内容をちゃんとしっかりと確認した上で、ではどういう対策が必要かということについても地域と一緒に考えていきたいというのは思っております。

○吉田こうじ委員 もう時間もあれなので、端的に何点か、つくばエクスプレスの東京駅延伸に関する取組状況ということで、要望書を提出した報告がございました。首都圏新都市鉄道株式会社、つくばエクスプレスの事業者なんですかけれども、東京都の都心部、臨海地域地下鉄の事業計画に合わせて出された要望書だと思うのですけれども、今

回は、この要望書を出された後に千葉県が新たに入会されてというふうに報告が出てますけれども、これ、例えばと受け入れる側というか、ただ、この会社に対しての大きな株主でもある東京都はどういうふうに考えていらっしゃるのか、その辺情報あつたら教えていただきたいのですが。

○交通対策担当部長 東京都については、まだここには参画されておりません。これまでの経緯の中でも、東京駅延伸というのは沿線自治体で要望書をTXの本社の方に毎年出させていただいておつたんですけども、そこにも基本的には足立区よりも北側の自治体が主体的で、足立区であつたりとか台東区であつたりとかが参加していたような状況でございます。そこにも東京都は出でていらっしゃらなかつたので、またその辺については確認をしてまいりたいと思うのですけれども、また恐らく時期を見て参画されるのかなというふうなことは、私の考えですけれども、そういう予想をしているところでございます。

○吉田こうじ委員 このつくばエクスプレスに関しては、例えば、千葉、茨城、埼玉とか、あちらの方の方々にとつては、東京駅とつながっていくということは、やっぱり利便性が高まる、逆に利便性が高まる分だけ住民の方も増えていくのではないかという強い想いとか要望はあると思うんですけども、これは、逆に足立区とか都心部に向かえば向かうほど、東京都につながる利点というんですかね、足立区にとっての利点といふのはどの辺にあるのか、ちょっと教えていただきたい。

○交通対策担当部長 まず、これまで東京駅へつながるということは、東京駅直結で、例えば六町駅から乗って20分ぐらいで東京駅まで行けるというような、非常にメリットといふんですか、六町の町の価値といふんですか、そうしたものを持げることになるのかなというふうに考えております。

更に、これが先で都心地下鉄の方につながって

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

いって、最終的には羽田の方までというような構想もあるようでございますので、そうしたことではやっぱり利便性が非常に高まるということは言えるというふうに考えております。

○吉田こうじ委員 分かりました。

ただ、利便性高まるのは足立区だけではなくて、逆に遠い地域の郊外の方々が非常に利便性が高まるということは、ますます混んでくるということになると思うんですね。

逆に言うと、足立区より都心部の自治体にとつては、利便性を高めるより先に混雑緩和を何とかしてほしいという方が私は優先だと思うんですけれども、今、8両編成に向けての現状というのはどういうふうになっているか教えていただけますでしょうか。

○交通対策担当部長 区内の今、北千住の駅がまだ工事が最終、今年度末に向けて進められております。2030年代の前半には8両化を実施するということで、**今のところ計画どおり進められている**というふうに聞いております。

○吉田こうじ委員 六町、青井、北千住と三つ駅があるわけすけれども、この運営会社、調べさせていただくと、茨城県18%、東京都17.65%、これ株の保有率ですね、第3位が何と千葉県と足立区なんですね。これ何かでそういう比率になっているのだとと思うんですけども、やはり足立区としては大変大きな金額、多分100億円以上のお金を出しているのではないかと思うんですけども、その辺、やはり1日も早く、やっぱり混雑緩和というのを先に何とか解消していただく中で、東京都延伸の方にもちょっと力を入れていていただくという方向性を、是非、堅持していただきたいなというふうにも思いますけれども、いかがでしょうか。

○交通対策担当部長 つくばエクスプレスを運行する首都圏新都市鉄道の方にも、毎年そうしたことでも要望書も出させていただいております。そうし

た中には、今、吉田委員おっしゃっていただいた内容というのは当然入ってくることでもありますし、あと、運賃の問題なんかも、これまで検討してきた結果が、今回、一部反映されているところもございますので、引き続き、要望活動は続けていきたいというふうに考えております。

○吉田こうじ委員 ありがとうございます。

あと、地域内交通導入サポート制度についてちょっとお伺いします。

このチョイソコ×せんじゅの方で協賛金というお話が出ています。協賛金というのは、会計上どういうくくりになっているのか、これが売上げの一部になるのか、寄附金になるのか、その辺ちょっとお伺いしたいんですけども。

○交通対策担当部長 事業者の場合には、協賛金という形でありますけれども、宣伝広告料というような形で、必要経費という形で計上できるというふうに確認しております。また、逆に一般の個人の方だと、寄附という形で頂くというような形になっております。

○吉田こうじ委員 分かりました。受け入れる側の会計処理を間違えると、また大変なことになりますので、今後のこともあるので、その辺はしっかりと見ていただきながら処理をしていただければというふうに思います。

それと、このチョイソコ×せんじゅもそうだし、花畠ぐるりんもそうなんすけれども、私もブンブン号時代からいろいろなことを、真鍋部長にも冷たい答弁をいただきながら今までずっといろいろお話をさせていただきました。でも、基本的には、本当はこの公共交通というのは、区がやっぱり責任持ってやるべきものであるというふうに私は思っていたんですけども、でも、やはり足立区としては、かじを切って、地域の方と一緒にやっていくと、それが一番長続きできる方法なんだと、それは、日本全国のそういう先進事例を見てもそういうふうになっているのだということで大

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

きくかじを切られたわけですけれども、チョイソコ×せんじゅの場合は、たまたまそういう事業者がいらっしゃったと。花畠の場合もたまたまそういう方がいらっしゃったと。例えば、区役所がやるのであれば、報酬を頂いて、頂いている職員の方々が仕事としてやられるわけですから、これは肅々と進んでいくのは当然なんですけれども、各地域において、町会・自治会の会長さんが、ふだんの忙しい仕事の合間を見てできるようなことはないと思うんですね。具体的にいろいろな細かいところまでいろいろ目を配って、一つ一つ手配をしたりとか、話し合いを進めたり、区の方にお願いをしたり、事業者さんとの調整をしたりというのが、各地域でそれをやっていくというのは大変なことだと思うんです、これから。そういう人材を、必ずや、たまたま見つかるかというと、私は非常に厳しいのではないかと思うんですね。だから、そういう意味では、扇の話も出てましたけれども、人を育てていくというよりも、そういう意識を持っていただく方に対する、やっぱりボランティア精神だけに頼っていくというのは、私は限界があると思いますので、そこは、これから検討していただきながら、そういう方と一緒にやっていくということであれば、それはそれなりの何か対価、見返りではないですけれども、そういうことも多少含めた上でやらないと、人がただで動くというのは、これは当たり前のことではないということを是非分かっていただきた上でこの制度は進めていただき、本来は区がやることだと思います、公共交通ですから。ただ、やっぱり地域と一緒にやっていくというのが長続きをさせていくということを決めたのだから、それだったら、その地域の方に頼るというよりも、これも突然区が決めたわけですからね。地域から出た声でそういう制度をつくったわけではないですか。区が決めていった制度だからこそ、やはりそこは丁寧にやっていっていただきたいというのは、こ

れ前回か前々回も申し上げましたけれども、ちょっとしつこいようですけれども、これは言い続けさせていただきたいなというふうに思います。

そういう意味で1点だけお聞きしたいのは、予算の話なんですけれども、各地域によっていろいろな手法でそれを進めていくわけなんですけれども、やはり今回の、例えば花畠で先ほどちよこつと地域の方にお話を伺って、バス停、また目印が見えづらかったというのも、もう少しお金が準備できれば、もう少し大きめのものを準備できたかもしれないですねというお話もありました。やっぱり各地域でいろいろなそういう特徴、特性というのがあると思うので、役所の計画ですから、予算というのは、きっと決めなきやいけないし、1か所にここまでしか掛けられないというものはあるにしても、柔軟に対応できるような仕組みにしといていただいた方が、私は今後はやっていけるのではないかなど思います。例えば、そういったことで急遽お金が必要になるとか、いろいろ今回のチラシの問題もそうかもしれないのですけれども、後から出てくるお金はいっぱい出てくると思うので、その辺に対しては、言葉悪いですけれども、けちらないで、何て言っていいか、その辺に関しては柔軟に対応していただけるような、そんな何億円も掛けたやるブンブン号みたいな、ああいうお金ではないですから、やっぱり何としても成功させたいという思いは区も地域の方も一緒だと思うので、そういう意味では、その辺のお金のことに関しては柔軟に対応していただけるように、地域の方は言いづらいと思うんですね、予算がこれだけですよと言われると、それ以上使っちゃいけないのかなと思っちゃって、その中で何とかやりくりしなくちゃいけないと思っちゃうので。その辺は目配り気配りで、こちら側から声を掛けいただきながら進めていただくというのはすごく大事なことだと思うのですけれども、この辺いかがでしょうか。見解を教えてい

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ただきたい。

○交通対策担当部長 予算の件につきましては、いろいろな御意見をいただく中で、来年の当初予算からはサポート制度の枠として、何か所かやっていくものを全体として予算化するような形で今準備をしているところでございます。そういう中で、やはり急遽支出が必要になってきた場合にも対応できるようにということで考えているところでございます。

また、全体としまして、昨年の10月に決議もいただいているところでもございますので、区としても、当然地域と一緒にやってはいくのですけれども、主体的にもなって取組を進めていきたいというふうに考えております。

○吉田こうじ委員 ありがとうございます。

もちろん予算ですから、行政がやる、税金を使うことですので、きっちとした予算を立てなきやいけないというのは重々承知なんですけれども、その上でやはり柔軟に対応していくという、そういう姿勢を持っていただけだと、包括的に予算を取っていただけるということであれば、これはありがたい話なんですけれども。区としても、多分、暗闇の中を手探りでという部分も、そこでスタートさせているというのは重々承知の上でお話ししています。だけど、地域の方にとって、暗闇の中に突然ぱんと押されたような感じですので、何からどう手を付けていいか分からないという地域がこれからどんどん出てくると思いますので、そういう意味では、今やっている先行事例を絶対に大成功させて、その上で次の地域にまた広げていっていただけるように、これは要望いたしますので、よろしくお願ひいたします。

○しぶや竜一委員長 他に質疑ございますか。

○中山ちえ子委員 先ほど来、この検証実験を失敗にさせないでというような話とかもありましたけれども、その失敗というような言い方というのは、各議員も今まで言ってきた方もいたと思うんだけど

れども、ないと思うんですね。何かと言ったら、やはり検証する事項をちゃんと整理するということが大切なんだということです。採算だけを検証するのではなくて。先ほど来、ぐるりんが1日何人乗車したとか、そういう話もありましたけれども、要は、これ乗ってもらうために、どれだけの協議会が工夫したか。今、聞いてたら全然報告がなかったので、ちゃんと認識して、報告してくるようにということを求めるといいんですけども、この花畠ぐるりんを周知してもらうために、そして高齢者が元気にその地域で暮らしていけるようにといった取組をこの協議会はやっています。それに何人来たかとか、どのぐらいやったかとか、どこ連携したかとか、そういうのをちゃんと報告してほしいのですけれども、どうですか。この間、部長もいらっしゃいましたよね、みんなの前で挨拶もしてくれました。20日の日に始まるときに、花畠保育園跡地のところで、ラジオ体操をやって、高齢者に来てもらって、それでアンケートをやってもらうというやっていたんです。こういう努力やっているんですよ。ここに何人来たかといったらどんどん増えているんですよ。そこはどうなのかということ。

そして、これをちゃんと検証に入れて、高齢者がどれだけ介護予防になったかとか、私たち厚生委員会で視察行きましたけれども、そこでは、ちゃんと一人一人がどういうふうに自立していくかといった努力をポイントにして、それで景品も出しているんですよ。こういったぐるりんの取組だったりがそういうふうに評価されていく。そして、乗っている人の数も、それは比例していけばいいことですけれども、そこはちゃんと評価すると。だから福祉部との連携をもうずっと言っているし、クロスセクターべネフィットと言って、交通をこうやって、ぐるりんをやったことによってもたらされる地域の利益、これを図っていこうということをずっと言っていますけれども、ここが答弁聞

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

いててもずっと出てこないし、どういうふうに考
えているのかと。これ一つだけお聞きしたいです。

○都市建設部長 今の御質問に関しては、今後の検
討課題だと思います。まだ始めたばかりですの
で、どういった効果があるかという、山中委員の
おっしゃることも重々分かりますが、そうい
った点も含めて、今後、当委員会でも御意見お聞
きしながら、執行機関も考えてまいります。

○山中ちえ子委員 是非、介護予防になっていると
か、医療費どれだけ削減できたかというのもや
んと計って、そこではいろいろな事業を評価して
たりしているんですよ、各自治体は。その先進事
例を見てきましたけれども、そこに至っていない
と。大学病院と連携してやってたりもしました。
だから、それをやっぱり横連携で、衛生部と福祉
部とも連携して、この地域に住んでいる人たちが
どれだけ元気になっていくものなのかと言ったら、
すごい効果があるわけですよね。だから乗ってい
る人が何人とか、そんなことで計れるものではな
いと。

もう一つお聞きしますけれども、当初予算のと
きに、実証実験分析に関わる検討費を計上してい
るのですけれども、これは2, 800万円以上計
上しているんです。これを考えれば、花畠や城東
に1, 000万円と700万円ということで配分
している金額と全く違う金額であって、こういっ
た予算の考え方で言えばおかしいのではないかと。
この予算が本当に使われているのか、どういうふ
うに使われているかという報告もずっとないで
すよ、1年間。どうなっているのかというところを
ひとつお聞きしたいと思います。

○交通対策担当部長 今、最後にございました委託
の経費につきましては、実施ができない部分も
ございます。ですので、そこについては12月の
補正で、逆にマイナス補正させていただこうとい
うふうに考えているところでございますので、併
せて御報告をさせていただきたいと考えておりま

す。

○しぶや竜一委員長 他に質疑ございますか、
○山中ちえ子委員 さっきのはるかぜの存続維持が
必要なところでも、国の補助金とダブっていた分
が区に1, 000万円以上返ってくるということ
もおっしゃっていましたけれども、こういった当
初予算で示された2, 000万円以上の、この地
域内交通に関わる予算ですね、この報告がない、
マイナス補正ということでやるというふうにおっ
しゃっている。一つ一つの事業である地域交通の
検証実験については、こうやって予算を絞ってい
くわけですよね。だから、その姿勢がどうなの
かと言ったところが、ちゃんと反省したり、見直
されてこないと、予算の配分ですよね、地域内交
通の制度の改正をこれからやるという中で問われ
てくることだと。その辺をしっかりとやっていただき
たい。お願いと答えられれば。終わります。

○しぶや竜一委員長 他に質疑ございますか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○しぶや竜一委員長 質疑なしと認めます。

○しぶや竜一委員長 次に、その他に移ります。
何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○しぶや竜一委員長 質疑なしと認めます。

それでは委員の皆様に申し上げます。

8月の委員会で宇都宮市のLRTについて視察
を行うことを決定いたしました。

今般先方から視察の受入れについての了承をい
ただきました。

つきましては、令和8年1月30日金曜日の午
後視察を行いと思いますが、御異議ありませんか。

〔「意義なし」と呼ぶ者あり〕

○しぶや竜一委員長 御異議なしと認め、左様決定
いたしました。

- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- ・音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- ・「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

視察の詳細につきましては、正副委員長に御一任いただき、後日、各委員宛てに通知することといたしますので、御了承願います。

以上で、総合交通対策調査特別委員会を閉会といたします。

午後零時 13 分閉会

速報版